

平成31年度／令和元年度（2019年度）事業報告書



インカレ・トラック／長野県松本市美鈴湖自転車競技場



インカレ・ロード／長野県大町市美麻地区



第14回・明治神宮外苑大学クリテリウム



2019年度・ロードレースカップシリーズ総合表彰



旧)学連事務局／岸記念体育会館



新)学連事務局／ジャパンスポーツオリンピックスクエア

日本学生自転車競技連盟

Japan Intercollegiate Cycling Federation



1 はじめに

平成31年度／令和元年度（2019年度）は、昨年度まで毎年大会を開催していた日本CSCが東京五輪準備のため使用できないこともあり、全日本学生選手権個人ロードレース大会は群馬CSCにて20年振りの開催となり、また全日本学生選手権クリテリウム大会はツアーオブジャパン最終日に東京ステージの会場である大井埠頭での開催となる等、大会開催地にも変化のある1年となりました。また、全日本学生選手権トラックでは女子オムニウムを採用する等の新たな選手強化の施策も行われました。

一方、本連盟事務局が2019年6月に、岸記念体育会館（原宿）より ジャパン・スポーツ・オリンピックスクエア（千駄ヶ谷）へ移転となりましたが、新事務局への移転もスムーズに完了し、各大会準備や開催や事業運営を滞りなく継続、実施することが出来ました。

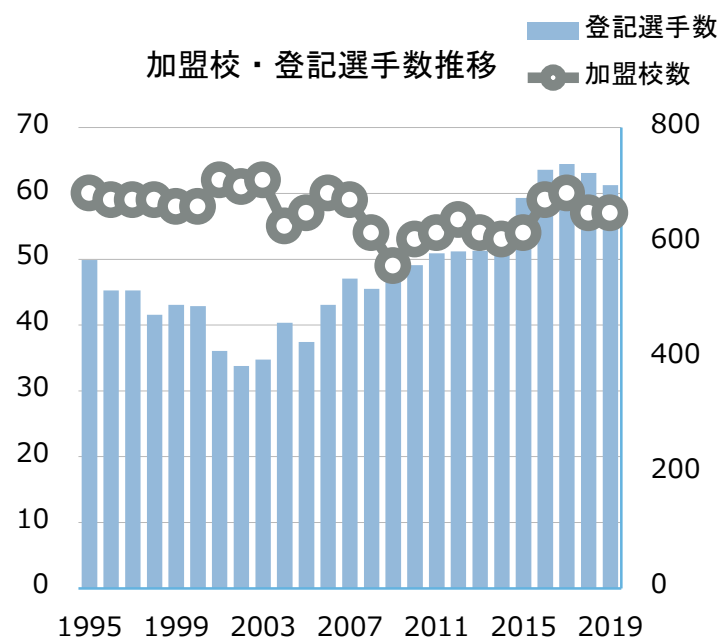
全日本学生ロードレース・カップ・シリーズは、年間のラウンド数が12程度で推移しておりますが、本年度も全国各地において開催地との連携を図り大会を開催しました。全日本学生トラック・レース・シリーズは、トラック・ロード双方におけるスピード面での強化に貢献しています。本連盟主催 UCI カレンダー登録トラック国際大会である JICF 国際トラックカップも継続して6回目を迎えました。

普及啓発活動においては、警視庁と連携した「モデルサイクリスト事業」の実施による交通安全プロモーションを前年に引き続いて推進したほか、改めて加盟校に安全走行に関する注意喚起を行って来ました。

2 加盟校数・登録選手数等の推移

2019年度は、加盟校は57校で前年と同数、登録選手数は女子が過去最高の44人であったものの、男子が減少して合計700名と前年対比21名の減少になりました。学連としては、近い将来に100校・1000名を目標としつつも、近年は増加が頭打ち傾向にあり、引き続き加盟校・登録選手増加に向けた努力が必要です。学連所属の審判員登録は111名、チームアテンダント登録は50名となりました。

（JCF 登録競技者数：8,360名/2020年3月、JCF 審判員登録 2909人、チームアテンダント 1934人）



東日本（静岡・長野・新潟以東）

CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計
1	北海道	北見工業大学				0
		札幌学院大学				0
		北海道大学	1	10	0	10
		室蘭工業大学				0
		北海商科大学				0
		北海道科学大学				0
2	青森	八戸大学				0
		八戸工業大学				0
		八戸学院大学	1	5	3	8
3	岩手	富士大学				0
4	宮城	東北学院大学	1	13	0	13
5	秋田					0
6	山形	山形大学				0
		東北芸術工科大学				0
7	福島					0
8	茨城	筑波大学	1	10	0	10
		流通経済大学				0
9	栃木	宇都宮大学				0
		作新学院大学	1	14	0	14
10	群馬	高崎経済大学	1	2	0	2
11	埼玉	獨協大学				0
		駿河台大学				0
		立正大学				0
12	千葉	順天堂大学	1	6	6	12
		中央学院大学				0
		明海大学				0
		木更津工業専門学校				0
13	東京	学習院大学	1	8	0	8
		慶應義塾大学	1	21	1	22
		駒澤大学	1	7	0	7
		芝浦工業大学				0
		首都大学東京	1	3	1	4
		成蹊大学	1	8	0	8
		大東文化大学	1	3	0	3
		中央大学	1	19	0	19
		東京大学	1	18	1	19
		東京工業大学	1	14	0	14
		東都医療大学				0
		東洋大学	1	8	0	8
		二松学舎大学				0
		日本大学	1	59	1	60
		一橋大学	1	2	0	2
		法政大学	1	20	3	23
		明治大学	1	18	0	18
		明星大学	1	20	0	20
		立教大学	1	11	0	11
		早稲田大学	1	15	2	17
14	神奈川	神奈川工科大学	1	5	0	5
		東海大学	1	22	0	22
		日本体育大学	1	21	6	27
		防衛大学校	1	12	0	12
		明治学院大学	1	5	0	5
15	新潟	新潟大学	1	10	3	13
		新潟食料農業大学	1	6	0	6
16	山梨	山梨学院大学	1	6	2	8
17	長野	信州大学	1	19	1	20
		長野大学	1	2	0	2
		松本大学				0
18	静岡					0
東日本小計			34	422	30	452

西日本

CODE	都道府県	学校名	加盟	男子	女子	計
19	富山					0
20	石川	金沢大学	1	3	0	3
		北陸大学	1	1	0	1
18	福井					0
21	岐阜	朝日大学	1	41	1	42
23	愛知	星城大学				0
		愛知大学	1	9	0	9
		愛知産業大学				0
		中京大学	1	4	0	4
		名古屋産業大学				0
		南山大学	1	0	1	1
24	三重					0
25	滋賀					0
26	京都	京都大学	1	13	0	13
		京都産業大学	1	17	1	18
		京都府立医科大学	1	1	0	1
		同志社大学	1	15	2	17
		立命館大学	1	10	2	12
		龍谷大学	1	12	1	13
27	大阪	大阪大学	1	6	0	6
		大阪経済大学	1	15	2	17
		大阪工業大学	1	8	0	8
		大阪産業大学	1	15	0	15
		大阪市立大学				0
		大阪府立大学				0
		追手門学院大学				0
		関西大学	1	14	0	14
		摂南大学				0
28	兵庫	神戸大学	1	7	0	7
		関西学院大学	1	9	0	9
29	奈良					0
30	和歌山					0
31	鳥取	鳥取大学				0
32	島根					0
33	岡山	岡山大学	1	6	0	6
		環太平洋大学				0
34	広島					0
35	山口					0
36	徳島	徳島大学				0
37	香川					0
38	愛媛	松山大学				0
		愛媛大学				0
39	高知	高知工科大学				0
40	福岡	福岡工業大学				0
		久留米大学				0
		九州大学	1	4	0	4
41	佐賀					0
42	長崎					0
43	熊本					0
44	大分	大分大学				0
45	宮崎	宮崎大学				0
46	鹿児島	鹿児島体育大学	1	23	4	27
		志学館大学	1	1	0	1
47	沖縄	名桜大学				0
		沖縄国際大学				0
西日本小計			23	234	14	248

全国合計

57	656	44	700
校	男子	女子	合計

3 大会の実施と参加者の推移

本年度事業日程に則り、下記の通り諸大会が実施されました。大会等当連盟主催事業への参加者数のべ人数は昨年の6855名から6201名へ減少しましたが、主な要因としては、RCSの実開催回数(中止を含む)が前年よりも減少したことや、インカレ第3日は女子オムニウムを中心とした構成であったこと等による減少です。今後も年間を通じた大会数・参加機会の確保は競技活動の基本であり、引き続き各都道府県連盟や地方自治体との連携、協賛企業の協力を仰ぎつつ、競技参加機会確保につとめ、同時に開催地域における自転車競技振興への寄与を図っていく必要があります。

平成31年度/令和元年度(2019年度) 日本学生自転車競技連盟 事業実施報告													v2020.06.13.
月	日	曜	日	大会名等	種別	当番校・主管							
				学連主催選手権大会等									
				全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ									
				全日本学生トラックレース・シリーズ									
				後援・代表派遣大会、会議等									
					種別	当番校・主管	男子	女子	OPEN	合計	動員数	アパレル印刷数	競技役員
4	6-7	土・日		全日本学生TRS第1戦	トラック	強化普及委員会	98	4	1	103	200	150	20
				同上第2日			59	9	1	69	150		20
4	13	土		第3級公認審判員講習会	会議								
4	20	土		第1回理事会・2019年度大会要項等説明会	会議								東京都渋谷区
4	26	金		競技規則・大会要項説明会、3級審判講習会(西日本)	会議	西日本							
4	27	土		全日本学生RCS第1戦 琵琶湖クリテリウムラウンド	ロード	西日本	113	-	-	113	200	150	25
4	28-29	日・祝		全日本学生RCS第2戦 第13回菜の花飯山ラウンド(ヒルクライム+ク	ロード	実行委員会	174	1	5	180	200	250	30
				同上第2日			174	1	5	180	200		30
5	3	金・祝		マディソン走行講習会・記録会	トラック	強化普及委員会							山梨県・境川自転車競技場
5	3-4	土・日		第39回 西日本学生選手権トラック自転車競技大会	トラック	西日本	79	3	-	82	150	150	30
				同上第2日			71	4	-	75	150		30
5	4-5	土・日		第59回 東日本学生選手権トラック自転車競技大会	トラック	慶應	171	9	-	180	300	300	30
				同上第2日			84	18	-	102	300		30
5	5	日		モデルサイクリスト・警視庁キャンペーン	街頭								東京都・銀座
5	11	土		第21回修善寺女子カップ(トラック)+全日本学生TRS第2戦	トラック	強化普及委員会	136	14	-	150	300	550	30
5	11-12	土・日		第21回修善寺女子カップ(ロード)+RCS#3修善寺オープンロード	トラック	東京	206	17	3	226	300		30
				同上第2日			206	17	3	226	300		30
5	26	日		第21回 全日本学生選手権クリテリウム大会	ロード	順天・日体	118	12	-	130	3000	300	60
6	1	土		第58回 全日本学生選手権 チーム・ロード・タイムトライアル大会	ロード	明治・朝日	130	-	6	136	300	500	115
6	2	日		全日本学生選手権 第31回全日本学生個人ロードTT自転車競技大会	ロード	明治・朝日	201	8	8	217	300		65
6	8	土		第35回 全日本学生選手権個人ロードレース大会	ロード	早稲田	166	14	2	182	300	300	40
6	16	日・祝		第1回評議員会/第2回理事会	会議								東京地区
7	6-7	土・日		第60回 全日本学生選手権トラック自転車競技大会	トラック	法政	222	27	-	249	350	400	60
				同上第2日			140	27	-	167	350		60
7	13-14	土・日		JICF INTERNATIONAL TRACK CUP&第3回全日本学生選手権オムニ	トラック	日本	96	16	41	153	500	400	30
				同上第2日			89	11	38	138	500		30
7	15	祝		全日本学生TRS第3戦	トラック	日本	150	13	2	165	300		30
7	21	日		ロード・2020テストイベント		TOCOG							
7	27-28	土・日		全日本学生RCS第4戦・第14回 白馬クリテリウムラウンド	ロード		231	-	7	238	600	300	30
				同上第2日			231	-	7	238	600		30
8	4	日		チームアテンダント講習会	会議	審判委員会							東京都・ジャパンスポーツオンビックススクエア
8	4	日		西日本大学対抗自転車競技大会	T	西日本	50	3	-	53	200	150	30
				同上第2日			50	3	-	53	200		30
8	24-26	土〜月		文部科学大臣杯 第75回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会	トラック	中央・東学・鹿屋	176	47	0	223	500	800	50
				同上第2日			145	42	0	187	500		50
				同上第3日			65	20	0	85	500		50
8	25	日		第3回理事会	会議								長野県・松本市美鈴湖自転車競技場
9	1	日		文部科学大臣杯 第75回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会	ロード	中央・東学・鹿屋	194	30	-	224	550		50
9	16	祝		全日本学生RCS第5戦 けいはんなサイクルロードレース	ロード	西日本	135	2	-	137	300	200	30
中止				全日本学生RCS第6戦・大島三原山ヒルクライムラウンド(台風により	ロード	審判委員会				0			京都府木津川市
10	27	日		第55回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・西日本大会	トラック	西日本	58	4	-	62	120	150	30
10	27	日		第55回 全日本学生自転車競技トラック新人戦・東日本大会	トラック	立教	121	9	-	130	200	220	35
11	10	日		全日本学生TRS第4戦	トラック	強化普及委員会	62	5	-	67	150	100	25
11	4	月・祝		全日本学生RCS第7戦 東海道どまんか袋井ラウンド	ロード		116	-	9	125	300	250	40
11	16	土		東京六大学対抗自転車競技大会	トラック		75	5	-	80	150	150	30
11	17	日		第4回理事会・研修会	会議								東京都・大島町
11	24	日		全日本学生RCS第8戦・浮城のまち行田クリテリウムラウンド	ロード	審判委員会	180	2	-	182	400	300	40
12	7	土		全日本学生TRS第5戦 併催：第53回早慶自転車競技定期戦	トラック	強化普及委員会	56	7	-	63	200	150	30
12	8	日		全日本学生RCS第9戦・埼玉ステイジレース第1ラウンド	ロード	審判委員会	169	-	-	169	200	200	30
2020年													
1	18	土		第5回理事会	会議								東京地区
1	19	日		全日本学生RCS第10戦・埼玉ステイジレース第2ラウンド	ロード	審判委員会	150	-	-	150	200	200	30
2	2	日		第3級公認審判員講習会	会議	審判委員会							東京地区・未定
2	16	日		全日本学生RCS第11戦・埼玉ステイジレース第3ラウンド	ロード	審判委員会	136	-	-	136	200	200	30
2	22	土		大学自転車フォーラム・大会要項説明会	会議								埼玉県・川島町役場前
2	23	日		全日本学生RCS最終戦・第14回明治神宮外苑大学クリテリウム	ロード	未定	270	20	48	338	12000	800	150
延期				チームアテンダント講習会	会議	審判委員会							東京地区
3	08	日		第6回理事会	会議								東京地区・未定
3	08	日		第2回評議員会	会議								東京地区
延期				第2級公認審判員講習会	会議	審判委員会							東京地区・未定
3	22	日		全日本学生TRS第6戦	トラック	強化普及委員会	36	2	-	38	50	70	20
				凡例：RCS：ロードレースカップ・シリーズ、TRS：トラックレースシリーズ、			5,589	426	186	6,201	26,770	7,690	1,665
													日本学生自転車競技連盟

4 選手権大会の開催

・全日本大学対抗（インカレ）：

長野県松本市美鈴湖自転車競技場（屋外 3 3 3 m）で 8 月 2 4－2 6 日にトラックを、9 月 1 日に長野県大町市美麻地区でロードレースを開催しました。

総合成績は、男子は中央大学が初優勝、女子は日本体育大学が優勝となりました。近年の競技力向上の成果もあり、男子スプリント予選 2 0 0 m ハロンの 9 秒台や 1 k m タイムトライアルの 1 分 0 1 秒台（学連新記録）、さらには男子チームスプリント 3 3 3 m 走路での 5 9 秒 4 1 1（中央大学チーム／男子エリート日本新記録）や女子スプリント予選 2 0 0 m ハロンの 1 1 秒 7 6 9（岩元杏奈選手(日本体育大学)／女子ジュニア日本新記録）など、数多くの新記録が達成され、近年の学生競技者の競技水準向上が感じられる大会となりました。

また、前年度に創設された「高木秀彰賞（インカレロードレースの男・女各々の優勝者のチームへ授与）」は、男子は日本大学、女子は慶應義塾大学が受賞しました。

・全日本学生選手権個人ロードレース大会：

前年度までと同様、今年度も長野県木曽郡木祖村コースは道路損壊により使用することができず、本年は群馬県の群馬サイクルスポーツセンター 6 k m サーキットで実施されました。本会場における学連大会は、1 9 9 9 年の個人ロードレース大会以来 2 0 年ぶりの開催となりましたが、各種安全対策により大きな事故も無く大会を開催することができました。女子は福田咲絵（慶應義塾大学）、男子は片桐東次郎（日本大学）が優勝しました。

・全日本学生選手権トラック大会：

長野県松本市美鈴湖自転車競技場（屋外 3 3 3 m）で開催されました。本大会でも、男子スプリント予選 2 0 0 m ハロンの 9 秒台（学連新記録）などの好記録により、レベルの高さが感じられる大会となりました。また、男子マディソンでも選手の技量が徐々に上がり 上位チームの熱戦が繰り上げられると共に、新たに女子マディソンも開催されました。

・チームロードタイムトライアル選手権大会：

例年と同様、埼玉県加須市・羽生市の利根川河川敷にて開催されました。走路幅が狭い等の弱点があるものの、首都圏からのアクセスに優れ、今年も多く観客・応援者が駆けつけました。スタート・フィニッシュ地点は、前年に引き続き「おおとね童謡のふるさと室」で、補給地点を折返し近傍に設置され、上位 8 チームには車輪サポート用オートバイの伴走が用意されました。日本大学が優勝しました。

・個人ロードタイムトライアル選手権大会：

前年より、ロード選手の個人の実力を計ることができる種目としての位置づけで、選手権大会として開催されており、本年度も学連外の有力選手やパラサイクリストなどのオープン参加も含めて大会が開催されました。

女子は福田咲絵（慶應義塾大学）、男子は今村駿介（中央大学）が優勝しました。

・全日本学生クリテリウム選手権大会：

本年度は、ツアーオブジャパン最終日に東京ステージの会場である大井埠頭での開催となりました。東京都内の公道を使用してのクリテリウム大会は、神宮外苑大会以来の新たな開催であり、非常に多くの観客の中で学生選手達による熱戦が繰り上げられました。女子は中川由理（日本大学）、男子は中村龍吉（中央大学）が優勝しました。

・東西学生選手権トラック：

東西共に 2 日間開催として開催されました。東日本は山梨県境川自転車競技場で、西日本は和歌山県和歌山競輪場で開催されました。

5 強化・普及大会の開催

・全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ

シリーズ戦は 2005 年度 2 戦を皮切りに現在は 1 2 戦程度が行われ、明治神宮外苑大学クリテリウムを最終戦とするスタイルが定着しています。各地の都道府県連盟と連携して企画され、学生競技者の大会参加機会増大・地域における自転車競技活性化の両面において一定の成果をあげ、選手権大会の参加資格を持たない選手にとっては参加資格を得る機会数の増大、すでに参加資格を持っている選手にとっては実戦レースに於ける技量の高揚の効果があり、近年の新規加盟校・新規登記選手の獲得にも寄与していると考えられます。（本年度は、第 6 ラウンドとして予定されていた、大島三原山ヒルクライムラウンドについては台風のため中止となりました。）

「明治神宮外苑大学クリテリウム」は 1 4 回目を迎え、オランダ・アムステルダム大学チームが参戦して積極的なレースが行われ、多くの観客の皆様がお越しになりました。

・ロードカテゴリ制

ロード選手のカテゴリを実力別にクラス 1, 2, 3, に分類し、選手権大会の参加資格者が決まる制度も定着してきました。これにより、本戦参加時までのレース経験度が上がり、選手権大会の安全性・競技レベルが向上しつつあると考えられます。クラス 2 の層の厚みが増したため、選手権大会でのエントリー資格はクラス 2 に限られるようになりました。クラス 3 は実力差の幅が広がりつつあり、特に春先の飯山ラウンドなどにおいてスキルアップ講習などの対応を行っています。

・全日本学生トラック・レース・シリーズ

ポイントレースなど競走系種目の実戦経験レベル向上を目指して開始された TRS も、参加資格取得のための記録会的性格も備えて参加者も増え、定着してきました。近年の選手権大会での各種新記録の続出に寄与して成果を挙げていると考えられます。

6 国際大会の開催・参加

2016 年から長野県松本市で実施してきている「J I C F 国際トラックカップ」は、UCI カレンダー登録クラス 2 の大会として UCI ポイントが獲得可能な大会で、トラックレースシリーズと併行開催することにより、学生が UCI ポイントを獲得するチャンスをより広く確保することに貢献しています。

7 会議・事業運営

本連盟事務局が 2019 年 6 月に、岸記念体育会館（原宿）より ジャパン・スポーツ・オリンピックスクエア（千駄ヶ谷）へ移転となりましたが、新事務局に於いても、毎週水曜日夜の定例会議を中心とした大会準備会合や、事業日程に基づき評議員会、理事会、委員会等の各種会議を開催し、事業運営を行いました。

各大会の準備および当日の運営にあたっては、当番校からの学生委員も前年より多数の参加が得られるようになり、自分達ならびに後輩の走る機会を自ら確保する、という運営形態をより強固なものとしつつあります。

参加者数に応じて競技役員を供出する運営方式の適用大会を上げたことにより、通年執務の学生委員の負担を平準化することができたほか、参加校学生にとっても運営面にかかわり競技に関する視野を広げるチャンスになっています。

8 立哨員講習会／資格制度化への取り組み

大会の安全運営や近隣住民の方々の安全円滑な交通状況を保つため、大会における立哨員の役割は非常に重要であります。本連盟でも立哨員を供出する大会が増えて来ておりますが、残念ながらその執務内容は不十分な場面が散見されました。そこで、立哨員執務の基本的な知識や実技の習得を図るべく、立哨員講習会を東日本地区／西日本地区で各々開催するとともに、受講完了証(立哨員資格登録証)を発行しました。今後は数年の移行期間を経て、本連盟大会の立哨員執務にあたっては、この立哨員資格を条件とする資格制度化を図り、安全で安心な大会運営と公道における大会継続開催に取り組んで参ります。

9 むすび

加盟校数・登録選手数など裾野の拡大は、一進一退を経ながらもゆるやかに進行してきましたが、ここ数年は頭打ちになってきた感があります。海外における大会での本連盟学生選手ならびに本連盟出身選手の活躍も活発化しつつありますが、日本を代表する選手の育成に引き続き努力が必要なところです。

シリーズ戦の地方開催など、自転車競技の普及発展にも一定の成果を上げ、それがインカレへの注目度の高まりにも貢献し、継続可能な体制に向けて事務局運営の見直し、学生委員・当番校制度の活性化が定着してきております。多くの関係者が連盟運営にかかわりつつ、適正コストで高度な運営が可能な体質獲得に向けて一層の努力を続けていくことが望まれところであります。

日本学生自転車競技連盟2019年度 最優秀選手 ※トラック／ロード ランキング年間最上位者

トラック	男子	山根将太（中央大学）
	女子	橋本優弥（鹿屋体育大学）
ロード	男子	片桐東次郎（日本大学）
	女子	福田咲絵（慶應義塾大学）

全日本学生ロードレースカップシリーズ総合優勝：

鈴木浩太（明星大学）

令和2年6月13日 第1回評議員会承認資料

日本学生自転車競技連盟

Japan Intercollegiate Cycling Federation

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2

ジャパンスポーツオリンピックスクエア408-2

ホームページ : <https://jicf.info>

電子メール : jicf@remus.dti.ne.jp